

学校法人同志社、 トップクラスの〈A A +〉格付けを取得

学校法人としてトップクラスの
評価〈A A +〉を取得

2004年4月、学校法人同志社（以下「同志社」）は、株式会社格付け投資情報センター（以下「R&I」という）により、格付け〈A A +（ダブルAプラス）〉を取得しました。

格付けのなかで〈A A +〉は、21段階ある格付けの上から2番目。債務履行の確実性が極めて高い優良な経営体であるという認証を得たことになりました。

現在、学校法人として格付けを取得しているのは12法人。この〈A A +〉は、早稲田大学、慶応義塾と並んでトップクラス。同志社は、関西大手私学では初めての格付け取得でした。

ちなみに、同ランクの企業をあげれば、花王、松下電器産業、キヤノン、

東京海上火災保険、大阪ガス、関西電力等のトップ企業が並んでいます（2004年7月現在）。

なぜ「格付け」を取得したか

格付けの審査にあたって重視される事項は、①納付金収入の動向、②収支の構造と状況、③財務の健全性、④学校法人運営の能力の4点。

この数年、特に同志社大学および女子大学では、社会のニーズを先取りして、新たな学部・学科、専門職大学院の開設、授業・カリキュラムの改革、学生サービスの一新、研究体制の充実、産官学連携など、一連の意欲的な取り組みを行ってきました。

今回の格付け取得の目的は、教学改革の成果を土台に、今後の財政基盤をあらためて確認するとともに、さらなる飛躍への自己確認および布石とするこ

ころにあります。

さらに外部の第三者からの評価に耐える体質づくりのために、財務と経営の将来展望を中心に、格付け会社による客観的かつ厳しい評価を、積極的に受けることにしました。

経営の安定性とブランド力、 教学改革の発展性が評価の理由

今回、高い格付けを得た主な理由として3点があげられます。その第1は、同志社が日本でも有数の長い歴史と伝統をもつ学校法人であり、とりわけ大学は、学生確保の優位性が極めて高いということ。さらに女子大学も、全国の女子大学不振が伝えられるなかで、将来を見据えた学部学科の再編で志願者数も増加基調で推移しています。

第2の理由は、財務基盤の健全性と経営の透明性・将来性。

第3の理由は、経営から教学にいたる幅広い側面が評価されたことです。すなわち、「京都」という世界都市における高い同志社ブランド力の信頼性、優位性によるものです。

大学留学生別科生が 止揚学園（障がい者施設）を訪問

留学生別科は大学の協定校からの交換留学生と、本学をはじめわが国の大学、大学院への進学を目指す私費留学生達に日本語を教授し、日本文化に関する理解を深めさせることを目的として1999年4月に開設され、現在72人が熱心に勉学に励んでいます。

7月7日、教職員および留学生合わせて総勢57人が滋賀県能登川町にある「止揚学園」を訪問しました。これは「止揚学園」を訪問しました。これは授業の一環として毎年行なっている留学生別科の重要な行事の一つです。止揚学園の創立者は本学出身の福井達雨氏であり、氏の「愛は自分の一番大切なものを人に分け与えるもので、自分が損をする時、大きな花が咲き、その中で他者も自分もうるおされるものです」という言葉が実践されている場を

訪問することにより、留学生に何かを得てほしいという気持ちからこの訪問がスタートしました。

止揚学園は1962年に知能に重い障がいを持つ子どものために設立された施設であり、現在は36人の重度障がい者の方々が共同生活をしています。福井氏は講演のためご不在でしたが、奥様から園の概要・施設を説明していただきました。近年建て替えられた建物は、外面も内部も障がい者の方々が描かれたカラフルで暖かい絵で一杯で掃除も行き届いており、特に炊事場、トイレ、洗濯場が一番大切なところであるとのことでした。障がい者の方々と一緒にカレーライスの昼食の後、皆で一緒に歌を歌ったり、また七夕ということ短冊にそれぞれの願い

を書いて竹に飾ったり、楽しいひと時を過ごしました。

最後に奥様のお話で印象的だった一つを紹介します。「水がとけたらどうなる？」という質問に、普通の子どもは「水になる」と答えるが、園の人達は「春になる」と答えたそうです。暑い日でしたが、留学生達は、それぞれが心に温かいものを感じて園を後にしました。

（大学留学生別科）



七夕飾りをする留学生たち